

令和 4 年度 第 1 回 プラスチック問題に関する万国津梁会議 議事概要

1. 資料説明に対する委員の質問・意見等

No.	質問・意見等	回答（対応方針）
1	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラスチック問題」は、広い範囲の意味を持つが、資料や提言を見ると、狭まった印象を受け、タイトルから受ける印象と資料の中身の印象がだいぶ違うように思う。（常盤委員） ・（常盤委員の意見を受けて）「プラスチック問題」でよいと思う。使用や廃棄に係る話だけでなく、流通あるいは新素材の普及等の政策を総動員しなければいけない話だと思うので、幅を持ったタイトルの方がよいと思う。（原田委員） ・（常盤委員の意見を受けて）プラスチックという素材のあり方そのものから考えるという認識でいる（浅利委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ・「プラスチック問題」について、プラスチック素材に着目した取組として、幅広く問題解決に向けて進めており、本会議も、製造事業者から小売事業者、廃棄物処理、リサイクル事業者と消費者目線となる消費生活アドバイザー、そして大学の研究者など、広い分野から委員に就任して頂いた。プラスチックごみ問題だけではなく、リサイクルも含め、製造事業者、新素材などについて、引き続き、幅広く議論していただきたい。（事務局）
2	<ul style="list-style-type: none"> ・別添資料 2 の付属資料について、地球温暖化の観点からも、燃やすものを減らしていく視点があるとよいと思う。同資料の「問題解決に向けた取組」について、ワンウェイプラスチックの大幅削減が明記されていないことが気になる。（村上委員） ・そして、対策のところでリユースの視点をもう少し強調したい（村上委員） ・3Rの優先順位もあらためて出るような私たちも望ましいと思う。（浅利委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ・別添資料 2 の付属資料を修正し、地球温暖化の観点、ワンウェイプラスチックの削減などを明記のうえ、キャッチフレーズ募集時に「プラスチック問題の概要等」として周知した。また、提言書(案)の <u>3 ページ</u>「2. プラスチック問題に対する世界・国内の動き」に地球温暖化の要因となること、<u>15 ページ</u>「1. プラスチック製品の使用削減」の(2)提言の②にワンウェイプラスチックの先進的な削減の推進を記述した。 ・提言書(案)の <u>15 ページ</u>「1. プラスチック製品の使用削減」の(2)提言の③マイタンブラー、マイ箸などの普及、<u>16 ページ</u>⑤軽量化によるプラスチック使用製品の削減やリユース商品の推進を記述した。また <u>11 ページ</u>「2. 普及啓発」の(2)提言の②でスポーツイベントやお祭りでのリターナブル容器の使用、<u>33 ページ</u>「7. 制度の導入と活用」の(2)提言の⑤でイベントの県の後援条件にリユース食器の利用を含めるなどを記述した。 ・提言書(案)の <u>5 ページ</u>「II. 沖縄県が目指すべきプラスチック資源循環社会のビジョン」の冒頭部分 2 段落目において「プラスチックを含めた廃棄物の 3 R を第 1 に発生抑制 (Reduce)、第 2 に再使用 (Reuse)、第 3 に再生利用 (Recycle) として推進すること」を記述した。

	<ul style="list-style-type: none"> 別添資料2の付属資料について、沖縄らしさ等をもっと見える化する資料づくりや言葉が必要だと思う。沖縄の地理的・海洋学的特徴を最初に示し、プラスチックの循環を考えるようになった経緯や論理などを示すとよいと思う。また、海中の写真だけでなく、観光客、市民の遊ぶ場所でのプラごみの様子などの身近な写真の挿入や入れ換えを行った方がよい。(清野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 別添資料2の付属資料に「沖縄のプラスチック問題の特徴」の項目を設け、沖縄のプラスチック問題の特徴を記載し、沖縄らしさを強調した内容を盛り込み、市街地(公園)に捨てられたプラスチックごみの写真を掲載した。また、提言書(案)の<u>1ページから3ページ</u>にかけて、沖縄県の状況として、大量に漂着するプラスチックごみ、沖縄の地理的な特徴と島々の分布、離島特有のリサイクルの課題などを記述した。
3	<ul style="list-style-type: none"> キャッチフレーズの募集について、動画などの募集はしないのか。若い世代への周知は、動画を使った告知ができると参加者も多く増えると思う。また、Googleフォームを使えない人のために、補足する応募方法もあると応募する人も増えると思う。(久鍋委員) 	<ul style="list-style-type: none"> 動画の募集については、応募、審査、会議資料への反映までのスケジュールを考慮すると今回の対応は厳しいため、令和5年度以降に実施する周知啓発の取組等で実施を検討したい。 募集用チラシについて、裏面に応募用紙に直接記載して提出できるようにし配慮した。

No.	質問・意見等	回答（対応方針）
4	<ul style="list-style-type: none"> ・募集の協力先として、例えばショッピングモールや空港等へのポスター掲示、投票箱設置でも集められる。また、県外などの方々にも沖縄の取組を知ってもらえる機会になると思う。（村上委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・ショッピングモールを含めた<u>県内 19</u> の小売店舗、那覇空港へのポスター掲示、投票箱の設置をおこなった。
5	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチフレーズ等の企業への周知には絵や写真なども取り入れたポスター等があってもよいと思う。加えて、スポーツイベントや祭りで使われる容器を変える取組を行うと、意識のない方々も意識は高まると思う。（赤嶺副委員長） 	<ul style="list-style-type: none"> ・令和4年第1回会議資料3の3ページに「キャッチフレーズ等決定後の周知啓発イベント等の開催に向けた検討」を示しているが、今年度の第2回、第3回会議で検討する予定で、今後イベントについて深掘りして考えていきたい。（事務局）
6	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄らしさをもっと見える化するような資料づくりとか、言葉が必要と思う。自分たちも（沖縄）ほかの地域から来るもの（海岸ごみ）を拾っているし、自分たちが出したもの（ごみ）は、すぐ海に出てしまうという沖縄の地理的、海洋学的な視点というか、そこを最初に出してプラスチックの循環ということを考えるようになったという論理を示しても良い。自分たちも気をつけるし、皆さんも気をつけましょうという呼びかけのところかなと思う（清野委員） ・別添資料2の添付資料の海中写真4枚について、人工ビーチみたいな都市部に近い海岸など、より身近な写真に取り替えるなどしても良いのではないかと（清野委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書(案)の<u>1ページから3ページ</u>にかけて、沖縄県の状況として、大量に漂着するプラスチックごみ、沖縄の地理的な特徴と島々の分布、離島特有のリサイクルの課題などを記載した。特に「海と深く関わる私たちの生活」の部分では、陸上や川のプラスチックごみが海に出やすい特徴を記述し、沖縄の川ごみの状況を図で表した。 ・別添資料2の添付資料の写真について、ビーチに漂着するプラスチックごみと市街地（公園）に捨てられたプラスチックごみの写真を掲載した。
7	<ul style="list-style-type: none"> ・映像（動画）での募集について、五感に訴える方法を使うことは非常に大事である。若い世代やアーティストなど、直接環境に関わっていない人の力を借りることで、新しい人たちを巻き込むことができ効果的だと思う。キャッチフレーズは今後様々な展開を考慮するとよいと思う。（原田委員） ・亀岡市では、リユース食器などをイベントで積極的に推進しており、後援条件に含めている。後援条件に「環境配慮の取組」を入れ、時間の経過とともに強化していけば、効果的に進められると思う。（原田委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・動画での募集については、応募、審査、会議資料への反映までのスケジュールを考慮すると今回の対応は厳しいため、令和5年度以降に実施する周知啓発イベント等で実施を検討したい。キャッチフレーズの周知等についても、令和5年度以降に実施する周知啓発イベント等で様々な形式での実施を検討する。また、提言書(案)の<u>11ページ</u>「2. 普及啓発」の(2)提言の①として「五感に訴える周知活動の展開」を追加した。 ・提言書(案)の<u>33ページ</u>「7. 制度の導入と活用」の(2)提言の⑤として「イベントの後援条件による対策促進」を追加し、県の後援条件にリユース食器の利用を含めるなどを記述した。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチフレーズ等の周知について、五感に訴えるものがあると、県民だけでなく、 	<ul style="list-style-type: none"> ・キャッチフレーズの周知等については、令和5年度以降に実施する周知啓発イベント等で

<p>観光客にもどんどん露出できる。観光客からどう思われているかは県民にとっても、大事な話で外から来る人にもどんどん露出することで機運が高まり、県民が誇りに思う動きになればいいと思う。</p> <p>(栲野氏：オブザーバー)</p>	<p>様々な形式での実施を検討する。また、提言書(案)の <u>11 ページ</u>「2. 普及啓発」の(2)提言の①として「五感に訴える周知活動の展開」を追加した。</p>
--	---

プラスチック問題に関する提言(素案)について

No.	質問・意見等	回答(対応方針)
1	<p>・提言の文章構成は、最初に一般論から入っている。行政や研究者向けはこれでよいと思うが、一般の方は自分たちの生活に関わるので、どこに軸足を置くかをもう一度構成を考えた方がよいと思う。島だからこそ自分が出したものがすぐ外に出るという話を意識して、自分たちが頑張ることと、世界につながることを繰り返し書かないと沖縄らしさが出ないと思う。県民が島しょ地域の特性や課題を理解していれば、書く必要はないが、そうではない場合があると思う。(清野委員)</p> <p>・総体的に沖縄県としてどこに注力するか、どういうメッセージを強く発信していくか。キャッチフレーズから見いだすこともあると思うが、この議論で「どこを大事にするか」は改めてしっかりと打ち出す必要があると思う。(浅利委員長)</p>	<p>・提言書(案)の<u>1ページから3ページ</u>にかけての冒頭部分について、一般論から入っている文書構成を改め、沖縄県の地理的特性、島しょ地域の特性に起因するプラスチック問題の現状から記述した。</p> <p>・海岸に漂着する大量のプラスチックごみ、陸域から川を経て流出するプラスチックごみ、離島特有のリサイクルの課題を記述するとともに、写真、図、グラフなどを用いて沖縄県の課題を県民へ訴えることとした。</p> <p>・提言において特に注力したいこと、重点的に取り組みたいことは、新しいライフスタイルへの転換であり、具体的には「環境教育・コミュニケーション」と「普及啓発」である。前回提示した提言書(素案)では、「Ⅱ.新しいライフスタイルへの転換」として特出ししたつもりであったが、重点事項としての性格がわかりにくかったことから、今回の提言書(案)では、<u>7ページ</u>に「重点対策」の項目を新に設け、新しいライフスタイルへの転換への提言につながるように記述した。</p>
2	<p>・「はじめに」のSDGsのロゴ掲載について、県や企業だけ、市民だけで行うのは不可能であり、17番の「パートナーシップで目標を達成しよう」も欠かせないと思う。(原田委員)</p>	<p>・17番の「パートナーシップで目標を達成しよう」のロゴを<u>6ページ</u>に掲載した。</p>
3	<p>・2~3ページ目の「沖縄県の状況」の書き方について、小見出しをつけると「何が特性なのか」分かりやすくなると思う。3ページの最初の段落は定性的な文章であるため、廃棄物におけるプラスチックの量など数値やグラフなどを見せながら、何を指すのかを示すとよいと思う。(村上委員)</p>	<p>・沖縄県の状況をひとくくりにするのではなく、提言書(案)の<u>1ページから3ページ</u>のとおりに「大量に漂着するプラスチックごみ」、「海と深く関わる私たちの生活」、「おきなわの川ごみしらべ」、「離島特有のリサイクルの課題」の小見出しに分け、沖縄県の課題の特徴を記載するとともに写真、図、グラフなどを用いて県民へ訴えることとした。</p>
4	<p>・「沖縄県が目指すべきプラスチック循環社会ビジョン」の中に、沖縄が日本をリードする取組をやりたいとあるが、ほとんどの項目は他県や他の市町村、海外でやっけて、すぐ真似ることも簡単だし、それほど難しくはないと思う。沖縄では何を重点に取り組みたいのか。どのターゲットを強く出すかで、沖縄に住んでいる人がやりやすい</p>	<p>・本ビジョンについて、何に重点き取り組むかは重要な観点であり、これまで7名の委員から頂いた意見やアドバイス、その意見などを踏まえた県庁内での調整において、特に注力したいこと、重点的に取り組みたいこととして、新しいライフスタイルへの転換、具体的には「環境教育・コミュニケーション」と「普及啓発」が重点事項と考えている。前回提示</p>

<p>状況というのが出てくると思う。ターゲットを強く出すことで、現場の企業としてもやりやすくなるのも本音であり、ぜひ協力してほしい。(久鍋委員)</p>	<p>した提言書(素案)において、重点事項としての性格が見えにくかったことから、今回の提言書(案)では、重点対策の項目を新に設け記述している。</p> <p>記述している項目では、環境教育・コミュニケーションが8提言(うち募集したアイデア2を含む)、普及啓発が7提言(うち募集したアイデア2を含む)の合計15提言となっている。この中からさらに重点的なターゲットを絞る(打ち出す)かどうか、委員7名の意見を伺いたい。</p>
--	---

No.	質問・意見等	回答（対応方針）
5	<ul style="list-style-type: none"> ・「沖縄県が目指すべきプラスチック循環社会ビジョン」の部分についてブレークダウンして詳しく書くことが必要だと思う。島しょ地域の特性や課題をもっと大きい字で示し、沖縄が頑張る必要性をPRしなければ、沖縄らしさが見えにくいと思う。 (清野委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・前回提示した提言書(素案)では、「沖縄県が目指すべきプラスチック循環社会ビジョン」について、主に2項目のタイトルのみ「1. 島しょ型プラスチック資源循環社会の実現、2. プラスチック対策の先進地へ」を示していたが、今回の提言書(案)では、<u>5ページ</u>冒頭で目指すべきビジョンの必要性を記述し、また2項目それぞれの説明書きを追記するなど、ビジョンの重要性を強調した。
6	<ul style="list-style-type: none"> ・短期・中期・長期の期限について、ものすごくよい考え方だと思う。一つの目標やゴールを決めて、やればやるほどスピード感や達成度は上がると思う。(久鍋委員) ・期限を短期・中期・長期に定めることは非常に大切と思う。その上で期限を定めた具体的目標がなければ、企業も行動に移すのが難しくなる。個別の品目についてではなくても、全体の結果としての数値目標を定めておくことが大事と思う。(原田委員) ・関連する沖縄県のほかの行政の数値目標との連携性を意識してはどうかと思う。SDGsアクションプランには数値目標があり、この数値目標を入れると統一性ができていいと思う。また、第6次観光振興計画基本計画の数値目標には、アメニティーを置かないホテルの割合が示されている。 (栩野氏：オブザーバー) ・数値目標を入れることが可能なら非常に望ましいとは思う。短期・中期・長期と、着手時期ついて、可能なものだけでもいつまでに達成するかを考える方が望ましいと思う。(浅利委員長) ・(事務局の回答を受けて)今回は提言で計画作成ではない。様々な計画との整合性だけでなく、前倒しして行うことでもよいと思う。ただし、今後県でプラスチックごみ削減に関する具体的な実施計画、基本計画をつくるなら、そこで数値目標を掲げてもよいと思う。具体的な計画をつくることを強いメッセージとして打ち出せばと思う。(原田委員) ・栩野さんの発言のように、関連する沖縄県の計画や、国や市町村の計画などもあり、大きな方向性として提言できる部分は示してもよいかと思う。(浅利委員長) 	<ul style="list-style-type: none"> ・数値目標については、現段階では開始年を入れている、SDGsアクションプランや、第6次振興計画などの数値目標などを確認し、今回の提言に記載するか検討する(事務局) ・県の他の計画の数値目標等は別紙を参照 ・提言書(案)では、<u>28ページ</u>に「6. 推進体制の構築」の(2)提言の②として「具体的な計画の策定」を記述することとし、本提言で示された取組を計画的・体系的に推進するための実行計画または基本計画を策定する必要性を追記した。

No.	質問・意見等	回答（対応方針）
7	<ul style="list-style-type: none"> ・事業者の参加意欲が増すようなことが、あった方がよいと感じた。例えば県SDGs推進室では優遇措置を含めた認証制度が設計されており、企業として取り組んだときの「いいこと」がもっと前面に出ると、産業界としては連携しやすいと思う。また、提言が観光産業と明確にタイアップする方針を立てると、事業者だけでなく、県民、観光客全てに分かりやすいので、産業界の巻き込み方の戦略か方針なども考えてはどうかと思う。（栩野氏：オブザーバー） ・観光産業とのタイアップは、すごく沖縄らしく、それこそ修学旅行とか次の誘致にもつながるということで、いいかたちで循環していけるような提言になる。（村上委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・産業界、観光業界との連携、タイアップに関連する項目として、今回提示した提言書（案）に次の取組みを記述した。 提言書(案)の <u>27 ページ</u>「5. ブランディング」の(2)提言の④「探求型修学旅行の誘致」、<u>28 ページ</u>「6. 推進体制の構築」の(2)提言の④「県民、企業、行政、消費者団体、観光客、教育機関、研究機関が一体となった取組」、その中で特に金融セクターとの連携への取組み、<u>32 ページ</u>「7. 制度の導入と活用」の(2)提言の④「認証制度の導入」、企業にとってインセンティブとなる仕組みの導入。
8	<ul style="list-style-type: none"> ・認証制度をつくり、県民・観光客にも見えるように海プラごみ削減に係る企業やプロジェクトに対して発行されるバッジやシールなどがあるとよい。若い世代は、買い物や宿選びの際、頑張っているところを選ぶこともある。コスト面での苦勞も改めて知ったので、インセンティブになるものを入れてほしい。観光分野の様々なインターネットサイトでは、いろんな評価項目などがある中で、付帯情報などが付いているものもある。その中に組み込めば新たにサイトをつくらなくてもいいと思う。（清野委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書(案)の <u>32 ページ</u>「7. 制度の導入と活用」の(2)提言の④「認証制度の導入」を追加し、プラスチック対策を実施している企業やプロジェクトにバッジやシールを発行する認証制度、企業にとってインセンティブとなる仕組みの導入を記述した。
9	<ul style="list-style-type: none"> ・小売関連としては、原料費やエネルギーが高騰する状況下で、環境についても取り組んでいることを理解してほしい。協力はいくらでもするが、現時点で、コロナの次にこの原料費の高騰の中で小売屋物価はかなり厳しい状態になっていることもご理解いただきたい。（久鍋委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書(案)の <u>32 ページ</u>「7. 制度の導入と活用」の(2)提言の③「企業等への支援」を記載しており、原料費やエネルギー価格が高騰し小売物価も厳しい状況下であるなか、環境問題に取り組んでいる企業に対して、循環型に資するビジネスを支援する施策を検討することを記述した。
10	<ul style="list-style-type: none"> ・資源価格の高騰は理解しており、電気代なども高騰しているが、だからこそ今資源の使用量を減らすメッセージを出せる側面も示していけたらと思う。（村上委員） 	<ul style="list-style-type: none"> ・資源（プラスチック）の使用量を減らすメッセージに関連して、提言書(案)の <u>13 ページ</u>から <u>18 ページ</u>に「1. プラスチック製品の使用削減」の項目を設け、特に <u>14 ページ</u>からの(2)提言において、プラ製品の使用削減の取組(提言)を記述している。

		<p>今年度中に「提言書」をとりまとめ、公表することにより、県民に対するメッセージとすること、また、キャッチフレーズの選定により、県民に対してプラスチック問題を分かりやすく、親しみやすいメッセージを発信していかねばと考えている。</p>
11	<ul style="list-style-type: none"> ・沖縄県が先進地域となるためには、国の規制を1歩2歩進んだ取組も必要である。個々の企業の努力に委ねていたら、取り組むところだけコスト増になってしまう。そうではなく、社会のルールにして県の条例など義務化し、逆に先進的に取り組む企業は先行した利得を得られるような仕組みをつくっていかないといけない。(原田委員) 	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書(案)の<u>31</u>ページ「7. 制度の導入と活用」の(2)提言の①「自立した制度の導入(デポジット制度や川ごみ対策など)」に、「先進地域になるためには国の規制よりも進んだ取組が必要である。条例などで義務化を行い、先行して対応した企業が利得を得られる仕組みが必要である」との記述を追加した。
12	<p>次の2点の内容がカバーされるようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄におけるプラ問題の特徴として、焼却ごみに占めるプラスチックごみが多い。 ・新しいライフスタイルへの転換の項目に、環境に配慮した商品やサービスを選択する新たな消費のあり方、ワンウェイプラスチックの大幅な削減につながる習慣の定着(後日の村上委員からのメールより) 	<ul style="list-style-type: none"> ・提言書(案)の<u>3</u>ページに「離島特有のリサイクルの課題」として、沖縄県と全国の1人当たりの一般廃棄物の排出量とリサイクル率を記述し、また資源化量の比較図を記載して、沖縄県のプラスチックの資源化量が少ない特徴が分かるようにした。 ・提言書(案)の<u>12</u>ページ新しいライフスタイルへの転換の「2. 普及啓発」の(2)提言の⑤として「新たな消費のあり方」を追加し、「環境に配慮した商品やサービスを選択する消費のあり方やワンウェイプラスチックの大幅な削減につながる習慣の定着が必要である」との記述を追加した。

各委員等の今年度の活動、自己紹介、会議に対する意見について

1	<p>浅利委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ドイツ出張の際、行きの飛行機が海外企業で、機内や現地、宿泊先でもほとんどプラはなかった。(EUでは) シングルユースプラスチックの規制が2019年から始まり、各国に落とし込んで半年という時期だった。スーパーももともとが裸売りの文化が残っていることもあると思うが、圧倒的にプラスチックの量が少なかった。世界ではそういう動きが進んでいることも念頭に置き、うまく使い分けていく必要があると感じた。 ・沖縄をフィールドにして研究、調査、それから特に教育プログラムの開発みたいなところもやっていきたい。 ・それから、県内で活動しているプレーヤーとともにプラットホームづくりにも関与できたらと考えたり、現地の方のお手伝いに入ることによって輪が強くなるならよりいいなと思っている。
2	<p>赤嶺副委員長</p> <ul style="list-style-type: none"> ・廃棄物のリサイクルを中心とした仕事をしており、廃棄物処理業から、建設業、解体工事業、造園業、あとは農業の方にも進出している。資源循環型社会ということでリサイクルをする川上の部分、例えば解体工事ですと、分別をして解体をしていかないといけない、その方がリサイクルしやすくなる。造園業ですと、伐採した草木をおがくずにして農家さんへ還元することや、食品系の廃棄物などをおがくずと混ぜて堆肥化し、野菜をつくったりしています。 ・今回のプラスチック問題というのもプラスチックにフォーカスしているが、ほかの廃棄物の問題も一緒だと思うので、事業してきた中で出てきた考え方というものを今後お伝えできればと思っている。 ・プラスチックには、さまざまな種類があるので、種類に分けた建設資材をつくるといったことから取り組んで、その建設資材を利用しやすくしないといけない、例えば県の公共工事における仕様書等には、建設時にリサイクル品を優先的と示されているが、アウトプット部分の課題もあるため、廃棄物処理側の目線で解決の後押しをする提言を入れていきたい。
3	<p>清野委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「九州大学海つなぎ」という、地域の方や多世代の方とつながりながら海を学ぶという海洋教育のプロジェクトをしている。調べ学習、総合、探求とかを絡めながらやっている。沖縄の方ともつながってきているので、少し地域的に離れているところと一緒に調査をやる面白いのをお願いしたい。 ・国の泡瀬干潟の環境関係の委員会には入っている。そこでは人工島の中や周辺でのビーチクリーンをするときの関わり方や新たな地域づくりへどう反映させるかなどを話し合っている。 ・うるま市の干潟再生にも参加させていただいている。 県内でもいくつかのプロジェクトが始まっているので、県の方針とうまく連動していくと相乗効果が出ると思う。
4	<p>常盤委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・微生物で分解するプラスチックというものを50年ほど研究しており、その関連で生分解するプラスチックの開発に取り組んでいて、沖縄では3年前から海洋で分解するプラスチックの開発に取り組んでいる。 ・沖縄のきれいな海での評価というのは非常にうまくいっていると思っており、評価方法の標準もできたが、当社だけじゃなく、世界、ISOに解放するというかたちで、世界標準機構にこの方法を解放する方向で国と手続きをしている。 ・沖縄の海は非常にきれいで、海洋生分解性プラスチックの開発にとっては非常に適した海だと思う。

5	<p>原田委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会科学、人文科学、自然科学の先生方も一緒に研究プロジェクトを新しくスタートさせ、特に農地で発生するプラスチックごみ、河川も含めて、目視では難しいような微細なマイクロプラスチックをスマートフォンとかを使って中学生でも調査できるようなキットの開発をおこなっており、プレスリリースできたら沖縄県での環境教育にも活用できたらと思っている。 ・提言（素案）の6番の「制度の導入と活用」の項目で、産業廃棄物税条例があるが、これは全国で多くの自治体でも導入されていて、効果も上がっている制度の一つと思う。 ・イギリスではプラスチック税を導入していて、リサイクル素材等を使っていない場合、税が重くなる制度になっている。このようにもともと減らしていくことと、合わせ技でやっていく必要があると思う。 ・2番目に「ふるさと納税の活用」もあるが、県では法律や条令での規制もあるが、経済的な手段も使えば、うまく機能させられるので、そのような議論もしていきたい。
6	<p>久鍋委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・提言中の取組（短期・中期・長期）は開始時期で十分よいと思う。みんなが始めようとする時期なので、来年には当たり前になることを周知していけば、「沖縄らしさ」は大きく変わるかと思う。そのためにやりやすいものに絞って告知していただきたい。 ・県内でリサイクル産業が循環型をできないのが最大の問題だと思う。周知をしてプラスチックを集めようが、その後の処理ができてない。そこでの循環型、また、企業として経営ができる体質にしていくことがプラスチック問題への持続性のある対応だと思う。 ・次回、そういった項目について、多く議論ができればと思う。
7	<p>村上委員</p> <ul style="list-style-type: none"> ・日本消費生活アドバイザー・コンサルタント・相談協会（通称NACS）では、サステナビリティへの関心が高まってきていて、「脱炭素に向けて消費者は何ができるのか」とう連続講座をおこなったり、エシカル消費の人材育成や教材開発に取り組んでいる。 ・今年度はプラスチックも何らかのかたちで扱いたいと思っており、沖縄の動きも紹介しつつ連携できればと思う。また、消費者センター沖縄の会員が募集や告知などに協力していければと思う。
8	<p>伊藤オブザーバー（東京大学未来ビジョン研究センター）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の社会課題としてのごみ問題について、地域の皆さんと一緒に考え、地域住民の力を合わせる事が重要なポイントと考えている。横の連携を取りながら住民の力を合わせるためにそれぞれにとっての便益を考えていけたらと思う。 ・社会便益、ベネフィットという、社会にとっていいことというのは明白で、きれいな海を沖縄の資産として有効活用していくこと、沖縄の海をきれいにしていくことが、県民、沖縄を支えていく産業界にとってよいことになっていくということと一緒に研究させていただければと思っている。

県その他の計画の数値目標値等

1 沖縄県廃棄物処理計画(第5期:5カ年計画)

一般廃棄物の目標値

- ・排出量 11%削減
(2019年 481千トン→2025年 428千トン)
- ・再生利用量 22%
(2019年 70千トン 14.5%→2025年 94千トン 22%)
- ・最終処分量 4.9%
(2019年 32千トン 6.6%→2025年 21千トン 4.9%)

産業廃棄物の目標値(人口増を加味した数値)

- ・排出量
(2019年 1,842千トン→2025年 1,860千トン)
- ・再生利用量 51%
(2019年 893千トン 48.5%→2025年 949千トン 51%)
- ・最終処分量 3.8%
(2019年 69千トン 3.8%→2025年 70千トン 3.8%)

2 おきなわSDGsアクションプラン

- ・一般廃棄物の再生利用率
(2019年 14.5%→2025年 22%)
- ・産業廃棄物の再生利用率
(2019年 48.5%→2025年 51%)

3 第6次沖縄県観光振興計画

- ・2032年の将来像 宿泊施設におけるアメニティグッズ廃止を導入している施設数 100件

4 第3次沖縄県環境基本計画(素案7.14時点)

- ・一般廃棄物の再生利用率
(2019年 14.5%→2027年 未定% 2032年 未定%)
- ・産業廃棄物の再生利用率
(2019年 48.5%→2027年 未定% 2032年 未定%)
- ・海岸漂着物回収・処理量
→2027年 未定 t/年 2032年 未定 t/年)
- ・海岸漂着物全県一斉清掃参加者数
→2027年 未定 2032年 未定)
- ・海洋プラスチックごみ問題対策
一般廃棄物プラごみ排出量
→2027年 未定 t 2032年 未定 t)
- ・プラスチック製品の資源循環に関する県民意識向上のための普及啓発活動等の実施
→2027年～2032年 年●回実施)
- ・環境美化のための全県一斉清掃(ちゅら島環境美化促進事業)
→2027年～2032年 年●回実施)



～「ちゅら島沖縄」の実現に向けて～ プラスチック問題の解決に取り組みましょう



沖縄のプラスチック問題

サンゴ礁に囲まれたエメラルドグリーンの海と白い砂浜。
美しい自然とそこで育まれた文化は世界に誇れる沖縄の大きな魅力です。
その「ちゅら島沖縄」に危機が迫っています。
海岸に大量のプラスチックごみが流れ着いているのです。

海岸に流れ着くプラスチックごみは、県外や海外からのごみも多くありますが、県内で捨てられ雨や風で運ばれてきたごみもあります。

プラスチックはとても便利で身近な素材ですが、自然界に流出すると長時間分解されず残り続けるため、今の使用量や対策では、2050年に海の魚の量をプラスチックごみが超えてしまうと言われています。

また、適正に処分されたプラスチックごみも焼却されることで二酸化炭素が発生し、地球温暖化の原因となります。

「ちゅら島沖縄」の実現に向けて、一人ひとりがプラスチック対策に取り組むことが求められています。



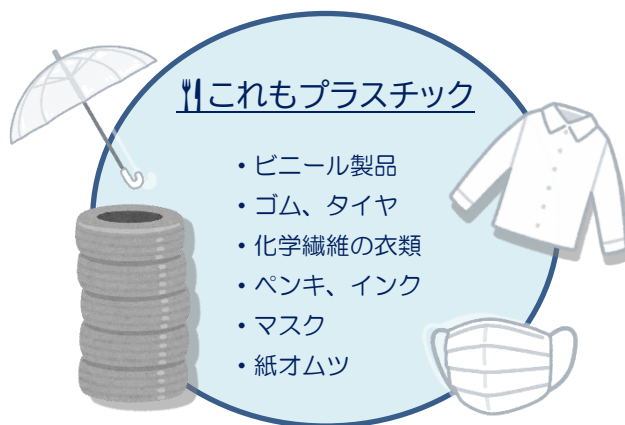
ビーチに漂着するプラスチックごみ



公園に捨てられたプラスチックごみ

沖縄のプラスチック問題の特徴

- 漂着するプラスチックごみの影響を大きく受ける
- 河川が短く、陸上のプラスチックごみが雨風で海に流されやすい
- リサイクルできず焼却されるプラスチックごみが多い
- ごみ処理やリサイクルの施設が限られている
- 離島ではごみの輸送コストが大きな負担となっている



プラスチック問題の解決に向けた取り組み

沖縄県ではプラスチック問題の解決に向けて、「[プラスチック問題に関する万国津梁会議](#)」を開催しています。プラスチック問題を総合的に検討するため、プラスチック製品の製造者、販売者、消費者、リサイクル事業者、新しいプラスチックの開発者、研究者等、各分野の専門家、関係団体の代表が会議に参加して議論しています。

今年度、会議は知事への提言をまとめる予定です。沖縄が目指すべきビジョンとして、現在次の方向性が示されています。

プラ対策の先進地として日本をリードする

島しょ型の循環社会を実現する

ビジョン達成のために、下記の取り組みを重点的に実施します。

- 新たなライフスタイルへの転換の推進
- 自然と共生する社会を沖縄の魅力として発信
- ビーチ・川・街中でのクリーン活動の推進



次のページに万国津梁会議で議論されているプラスチック問題解決に向けた取り組みを示します。

新しいライフスタイルへの転換(抜粋)

1. 環境教育・コミュニケーション

- 学ぶ機会、情報に触れる機会の創出
- ワンウェイ・プラスチックの大幅削減や、プラスチックごみの回収～処理・活用までを含めた総合的な学習
- 自治会や住民との対話を重ねる取組、教育関係者との連携
- 若い世代への普及啓発、効果的な学習プログラムの開発



2. 普及啓発

- 環境に配慮した商品やサービスを選択する新たな消費行動の普及
- ポイ捨てされたごみがすぐに海に流れ出る島嶼の特性の考慮
- 関係者が連携した管理や捜査の強化(不法投棄、ポイ捨て対策)
- マイクロプラスチックを発生させない衣類や洗濯方法の普及



プラスチック資源循環社会に向けた取組(抜粋)

1. プラスチック製品の使用削減

- 使い捨てプラスチックの先進的な削減の推進
- 沖縄らしい伝統的な資源循環の工夫や知恵の活用

2. リサイクルの推進

- 再資源化施設の整備や分別方法の統一、スケールメリットの創出

3. クリーン活動の推進(海洋ごみ対策)

- 川ごみを含めた陸域の清掃活動、美化活動などの支援や活動の周知
- 海洋ごみを資源として活用する方法の検討

4. ブランディング

- 県民のプライドにつながるプラスチック対策
- 自然と共生する沖縄らしいスタイルのアピール

5. 推進体制の構築

- 県民、企業、行政、その他団体・機関や観光客が一体となった取組
- 国の目標を上回る数値目標の設定

6. 制度の導入と活用

- 自立した制度の導入(デポジット制度や川ごみ対策など)
- 国や県の補助制度、ふるさと納税の活用

